１食のまち・八戸キャンペーン事業について

食のまち・八戸満喫宿泊キャンペーン

食のまち・八戸
満喫宿泊
キャンペーン



ハマる、冬のハチノヘ。

For Food Adventurers
食のまち 八戸

食のまち・八戸満喫宿泊キャンペーンの概要

目的

・宿泊需要が落ち込む冬季における市内宿泊施設の利用促進を目的に実施するもの。
・宿泊された方に市内の飲食店を利用していただくことで、地域内での消費拡大につなげるとともに、豊かな食の魅力を広く発信する。

1泊あたり3,000円の宿泊割引

市内の飲食店で利用できる3,000円分の地域クーポン

事業費

75,000千円（宿泊割引原資27,000千円、地域クーポン原資27,000千円、事務費21,000千円）

発行総数

9,000人泊分

購入申込から利用までのスケジュール

01　申込み

10月15日（木）～

02　予約方法

株式会社リクルートが運営する宿泊予約サイト「じゃらん」を通じて予約

03　実施期間

11月1日（日）～1月31日（日）

04　地域クーポンの利用方法

デジタルクーポンによる利用

2　第２弾食のまち･八戸応援食事券事業について



第２弾食のまち・八戸応援食事券の概要

目的

８月８日の「食の冒険者が憧れるまち・八戸」宣言を記念して、物価高騰の影響を受けている市民の皆様の家計を支援するとともに、市内飲食店の利用促進を図り、地域経済の活性化を図る。

5,000円で
8,000円分のお食事

プレミアム率
60%

発行総数
20,000セット

対象
八戸市民・１人１セット

購入申込とスケジュール

01　申込み

10月5日（月）～20日（火）

WEB・LINE・専用往復はがき

02　抽選・通知

11月中旬まで

応募多数の場合は抽選

03　購入

11月20日（金）～1月7日（木）

市内の指定販売所で購入

04　利用

11月20日（金）～2月20日（土）

市内の参加飲食店で利用

3 「世界最大級のお月見会」開催の概要

1 目的

詩人・草野心平が「ザボンの月」と称した種差海岸のお月見を広くＰＲするため、お月見会や月と食をテーマとしたトークイベントを開催するとともに、種差海岸のお月見を楽しめる時期において、キャンペーンを実施する。

2 開催概要



期　間：令和８年10月24日(土)～令和８年12月27日(日)

内　容：上記期間を種差海岸での「世界最大級のお月見会」キャンペーンと銘打ち、ＪＲや種差地域の施設・飲食店等と連携を図り、お月見カレンダー入りポスター及びチラシを作成し、ＪＲ八戸線の定期便等を活用しながら、秋・冬の種差海岸への誘客を図る。

開催内容

1　種差海岸での「世界最大級のお月見会」キャンペーン開催

日　程：令和８年10月24日(土)～令和８年12月27日(日)
内　容：①八戸駅・種差海岸駅等にお月見カレンダー入りポスター及びチラシを掲示・配架し、来訪者に、月の出や月の入りの時間、鑑賞方法等の情報を提供する
②満月の日（10月26日 (月)、11月24日 (火)、12月24日 (木)）に先着でノベルティを配布

2　お月見会・トークイベントの開催（八戸市主催）

日　程：11月22日（日）、23日（月）　15:30～19:00頃を予定
場　所：種差天然芝生地、種差海岸インフォメーションセンター、ミチル種差
参加費：4,000円（税込）/人
定　員：各日40名（先着順）※電話もしくはWEBでのお申込み
内　容：①お月見会（ガイドによる解説付）
②月と食をテーマとしたトークイベント
・ゲスト　長内あや愛（食文化研究家）様
・トークテーマ　種差海岸での「食のストーリーを味わう お月見会」
③月をイメージしたコースディナーの提供
④来場者への記念品の配布

開催内容

長内あや愛（osanai ayame）【食文化研究家】



出身地：東京都
肩書：食文化研究家
株式会社食の会　代表取締役 「食の會 日本橋」
フェルメクテス（株）共同経営者
山形大学農学部客員准教授
慶應義塾大学SFC研究所　上席・研究所員
福澤諭吉食文化研究/明治時代食文化研究

■プロフィール
「14才のパティシエ」と題して、2011年小４からお菓子づくりの記録をブログ更新（現在11年目）
ブログ（Amebaオフィシャルブログ）は、世界中の”スイーツ”の作り方や歴史、
ご当地スイーツ、食べ歩き、紅茶やコーヒーなど、食材から文化まで綴る。
高3時に「世界経済フォーラムダボス会議」のU30起業家コンテスト
「Re-Generate Japan」を最優秀賞。
その経験から「食」をアカデミアの観点から研究しようと
慶應義塾大学総合政策学部へ進学。同大学院修士課程終了。
「食は実際に食べてもらわない事には研究だけでは意味を為さない」
として学生時代に起業し、 日本橋に「食の會日本橋」の研究拠点も
開店。食文化研究とその再現に取り組む。



こらからも、
「食の冒険者が
憧れるまち・八戸」
を目指した取組を
推進していきます。